



目利きAランク認定

飛鳥メディカル株式会社

DATA

代表取締役会長 中村 誠司
 〒600-8231
 京都市下京区油小路通下魚棚下の油小路町288
 井筒堀川ビル3F
 TEL 075-342-5477
 FAX 075-342-5488
 URL <http://www.asuka-med.com/>



代表取締役会長
中村 誠司 氏

テーマ

世界初子宮頸癌レーザー温熱治療器並びに国産下肢静脈瘤レーザー治療器の商品開発

癌治療用レーザー温熱治療器の製品化を志し起業

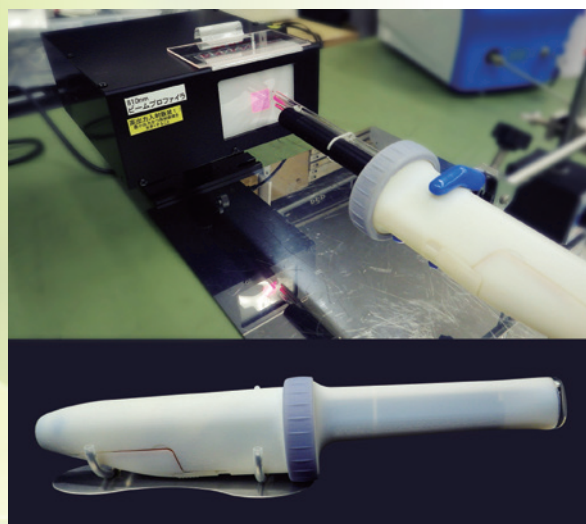
弊社は2003(平成15)年、痛みや副作用を伴わない治療を実現できる癌治療用レーザー温熱治療器の開発を目指して設立されました。人用の医療機器は製品化までに10年前後を要するため、日本ではハイリスクな治療機器の開発を手掛けるレーザーメーカーは少なく、海外においても医療機器に分類されない美容・皮膚科向け製品が中心に取り扱われています。従って弊社のようなベンチャー企業が、世界でも類を見ない癌治療用レーザー温熱治療器を開発することは無謀ともいえます。私は母と妻を乳癌で亡くし、現代の癌治療がいかに患者の心身に大きな負担を強いるものかを思い知らされました。多くの患者を苦痛から解放したい。そんな強い思いが、チャレンジへの大きな原動力となりました。

私はかつて医療機器メーカーやレーザーメーカーに勤務し、診断と治療の両分野であらゆる研究に携わりました。弊社の最大の強みは、蓄積した知識と経験を活かして現場のニーズに沿った医療機器を開発できる点にあります。設立時から他社製レーザー治療器の販売等と並行して自社製品の開発を進め、2013(平成25)年には人用レーザーメスを完成させました。

世界初の子宮頸癌レーザー温熱治療器の開発に着手

今回、目利きAランクに認定された子宮頸癌レーザー温熱治療器の開発は、2012(平成24)年から大学と共同で進めてきました。弊社が計画していた乳癌治療器と同様、正常細胞よりも熱に弱い癌細胞をレーザーで温めて死滅させるものです。癌治療用のレーザー温熱治療器は、世界でも例がありません。

治療の際は、内視鏡機能、観察用LEDライト、癌細胞を際立たせる紫色LED、患部の温度を測るセンサーを内蔵した経膈ハンドピースを挿入し、子宮頸部の癌細胞に約40分間、火傷を起こすことなく癌細胞を死滅させられる43.7℃前後を維持できるよう制



子宮頸癌レーザー温熱療法プローブと矩形ビームプロファイル試験

御しながら矩形レーザーを照射します。特長は、子宮頸部を切り取る必要がなく妊娠・出産の可能性を保持できることと、痛みや副作用がないため再発した場合にも何回でも使用できること。矩形レーザーはどの部分も出力が均一なので、面積が広い場合も少ない回数で治療が可能です。

効果的で侵襲が少ない治療方法の普及に向けて

本レーザー温熱治療器は、現在臨床試験の段階ですが、よい結果が出ており、2016(平成28)年の夏前には終了の見込みです。製品化に向けての課題は、レーザーの照射面積を維持したまま、いかにハンドピースを細く小さくするかということです。治験を経て、2018(平成30)年頃の発売を予定しています。また並行して、初の国産下肢静脈瘤レーザー治療器や、乳癌や皮膚癌の治療に用いる温熱治療器の開発にも取り組んでいます。

今回、目利きAランク認定を受けたことで事業に対する信頼性が高まり、金融機関等との交渉もスムーズに進むようになりました。補助金制度等も活用しながら新たな医療機器の開発を積極的に進め、効果的で侵襲が少ない治療法の普及に貢献したいと思っています。



本社内のクリーンルーム



子宮頸癌レーザー温熱治療器の試作機